

『magnet -不幸せな恋でも-』

薄暗い部屋。淡いネオンの光が、二人を妖しく魅せる。

「……こなちゃん」
「んっ……何も言わないで……つかさ」

不安そうにこなたを見るつかさ。その口をこなたの指が止める。
そのままつかさの髪を撫で、唇が重なった。

「好きだよ、つかさ」
「こなちゃん……愛してる」

互いに互いを確かめるように、でもその言葉は決して嘘じゃない。
ただ単純に声に、言葉にして伝えたかった言葉。

薄暗い部屋。淡く光るネオン。真夜中の深い闇に呑み込まれないように、二人は白いシーツの海に互いの身体を重ねた。

例え報われない恋だとしても……

いつか離れてしまうその時まで……

今はただ、この愛情の中で甘えていたい……

• magnet-

私はつかさが好き。でも解ってる……
それがどんなに常識から反しているか -

でも私はつかさが好きなんだ!

あの幼気な優しいつかさが大好き。

でも現実はそのを許してはくれない

• 同性愛-

所詮は報われることのない恋

もし……もし例えその恋が実ったとしても、周囲の目が怖い……

でも、つかさは私に言ってくれた。
もうどうにも出来なくて、抑えていた気持ちを伝えたくて、今にも泣き出しそうで、今にも逃げ出したい程の私が初めて伝えた『言葉(告白)』を一……

『私も! ……わ、私も好きだよ! こなちゃん』

- 嬉しかった。もう絶対ダメだと思っていたのに、つかさは私を好きだと言ってくれた -

でも同時に不安もあった

これでつかさと付き合っていて、周囲の皆の目がそれを許してくれるか.....

でもそんな心配も余所に、つかさは言った。

『私も今までずっと、こなちゃんの事好きだったんだけど.....怖かったんだあ~でも.....これからはどんな事も二人ならきっと.....ね 』

あ.....もう、やっぱりつかさには勝てないよ.....

でもさ、つかさがあの時、そう言ってくれたから、私もつかさとどんな困難な壁も乗り越えて行けるって、思ったんだもん!

『-二人なら、幸せも痛みも二等分-』

きっとこの言葉はそう言う事なんだね。

.....

.....

.....

...

「.....こなちゃん、泣かないで?」

つかさに言われて気づいた。いつの間にか昔の事を思い出していたみたい

私を心配して抱きしめた。

あれ? でも何でつかさも泣いていたの?

もしかして、つかさも私と同じ夢でも見てたのかな?

だから私も抱きしめてくれたつかさをぎゅ~って、してあげた。

「こなちゃん.....好き」

「つかさ.....私も...だから、もっと愛してね?」

薄暗い部屋で、淡いネオンの光だけが照らすこの部屋で、夜の闇に吞まれないように、二人は再び愛し合うー.....

• END-

[作者別保管庫\(5スレ目\)に戻る](#)

コメントフォーム

名前:

コメント:

投稿
